

小学校体育でテニス型の授業に取り組んでみませんか？

新学習指導要領解説体育編(2017,文部科学省)において、「バドミントンやテニスを基にした易しいゲーム」が中・高学年に例示されるようになりました。

今後、テニス型の授業実践が盛んになることが期待されています。

1. 小学校でテニスの授業!? ぜひ、一緒に取り組んでみませんか？

小学校のボールゲームは「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」に分類され、「ネット型」はさらに「攻守一体型（テニスや卓球など）」と「連携型（ソフトバレーボールなど）」に分けられています。これまでの学習指導要領解説体育編では、「攻守一体型」のゲームは例示として取り上げられていませんでした。それは、「①打具を使う技術の難しさ、②運動量の確保の難しさ、③場や用具の新たな準備の負担、④学習内容が不明瞭」などの理由から、小学校段階において難しいと考えられていたためだと思われます。



ネット型ゲームで一般化している連携型のソフトバレーボールは、2008年の学習指導要領解説体育編によれば、中学年では「ラリーを続ける」、高学年では「チームの連係による攻防」が目標とされています。けれども、実際には特定の子しかボールに触れていなくて、単発で得点が決まりラリーが続かないゲーム、一発返しや上手な子だけで返球する連係による攻防には程遠いゲームが展開されていることも少なくありません。

個人でのプレイを基本とする攻守一体型のゲームは、特定の子どもたちだけが活躍するのではなく、一人ひとりが活躍し、個が輝ける学習の可能性があるのではないか。そのような思いで2003年から研究をしてきたのがテニス型授業「テニピン」(今井,2013)です。ぜひ、小学校でテニス型の体育の授業に取り組んでみませんか。

2. メインゲーム「テニピン」 (※ホームページにて動画配信中)

【テニピンとは】

テニピンとは、バドミントンコートとほぼ同様の大きさ（横5m×縦10m×高さ80cm）で「手作り段ボールラケット（20cm×20cm）」や「てのひらけつと」（中学年対象）、「ミニラケット」（高学年対象）などの用具を操作しながら、ネットを挟んでスポンジボールを打ち合う、テニスとピンポンを合わせたようなゲームです。



段ボールラケット



てのひらけつと



ミニラケット